

ストップ再処理

海に空に放射能を捨てないで!

青森県六ヶ所村にある「六ヶ所再処理工場」は、全国の原子力発電所の使用済み核燃料からプルトニウムとウランを取り出し再利用するという計画にもとづいて建設されました。しかし、トラブル続きで延期を繰り返し稼働の見込みがあるとは思えません。いっぽう、六ヶ所村ではなく外国に再処理を委託してできたプルトニウムを使つての「プルサーマル」実施、福井県の高速増殖炉原型炉「もんじゅ」の運転再開、新たな原発建設など、当初の計画から大きく遅れてはいるものの、核燃料サイクルが着々と進められている状況があります。

私たち「六ヶ所再処理工場」に反対し放射能汚染を阻止する全国ネットワークは、いのちと食べもの、そして自然環境を、生産者とともに守ることを主眼に、六ヶ所再処理工場の中止を求めて2007年に発足しました。これまで、署名活動、「メッセージカード」の作成・頒布、マグネットシートの作成・頒布、集会とパレードなどを重ねてきました。現在6つの呼びかけ団体と631の賛同団体・個人がネットワークを形成しています。

事業者である日本原燃(株)が再処理工場の完工を予定している10月を前にして、その問題点をあらためて明らかにし、これまで関心がなかった方にもぜひ知ってほしい、そして、おおぜいの声により稼働を中止させたい、とこの会を企画しました。多くのおみなさまの参加をお待ちしています。

とき 2010年9月4日(土)

13:30 ~ 16:30 (開場 13:00)

ところ 東京ウィメンズプラザ ホール
(東京都渋谷区神宮前 5-53-67)

参加費 無料

鎌仲監督の自主制作映画の資金カンパを会場で募りますのでご協力をお願いします

内容

報告 「放射能自主測定の結果と

六ヶ所再処理工場の今」

映画 「六ヶ所村通信 No.4」

上映と監督(鎌仲ひとみさん)の話

鼎談 鎌仲ひとみさん(映像作家)

菊川慶子さん(「花とハーブの里」主宰)

水口憲哉さん(「資源維持研究所」主宰)



主催 「六ヶ所再処理工場」に反対し放射能汚染を阻止する全国ネットワーク

<呼びかけ団体 = 生活協同組合あいコープみやぎ、グリーンコープ共同体、生活クラブ事業連合生活協同組合連合会、大地を守る会、特定非営利活動法人日本消費者連盟、パルシステム生活協同組合連合会 >

【会場周辺地図】

東京ウィメンズプラザ ホール（渋谷区神宮前 5-53-67）

JR 山手線・東急東横線・京王井の頭線：渋谷駅下車徒歩 12 分

地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線：表参道駅下車徒歩 7 分

都バス(渋 88 系統)：渋谷駅からバス 4 分青山学院前バス停下車徒歩 2 分



鎌仲ひとみさん(写真) (映像作家)

早稲田大学卒業と同時にドキュメンタリー制作の現場へ。

『エンデの遺言 根源からお金を問う』など番組を多数監督。2003年ドキュメンタリー映画『ヒバクチャー世界の終わりに』を監督、国内外で受賞。2006年『六ヶ所村ラブソディー』は国内外650ヶ所で上映。今年4月、待望の最新作『ミツバチの羽音と地球の回転』を完成！明治大学、国際基督教大学、津田塾などで非常勤講師もつとめる。



菊川慶子さん(「花とハーブの里」主宰)

3歳の時に両親が六ヶ所村に入植。中学校卒業後、川崎に集団就職。結婚を機に千葉県松戸市に定住したが、1987年チェルノブイリ事故をきっかけに、1990年、家族5人で六ヶ所村にUターン。以来、反核運動に関わる。1993年からチューリップ栽培をはじめ、「核燃に頼らない村作り」を呼びかけて毎年チューリップまつりを開催。今年からジャム工場を操業開始。

水口憲哉さん(「資源維持研究所」主宰)

中国・大連生まれ。両親の出身地は山形県鶴岡、育ちは東京・新宿。東京海洋大学名誉教授。農学博士。原発建設や開発から漁民を守る“ボランティアの用心棒？”として全国を行脚し続けている。著書に『釣りや魚の科学』、『反生態学』、『海と魚と原子力発電所』、『新版 魚をまるごと食べたい』、『魔魚狩り ブラックバスはなぜ殺されるのか』、『放射能がクラゲとやって来る』、『桜鱒の棲む川』など多数。

連絡先 特定非営利活動法人 日本消費者連盟

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 1-9-19-207

TEL 03-5155-4765 FAX 03-5155-4767 Eメール office.j@nishoren.org